

アフター・メルケルの ジェンダー平等推進

ドイツのジェンダー関連施策 の最新報告



←お申し込みはコチラ
定員：対面 80 名 / オンライン 500 名
締切：12 月 19 日（火）

zoom ウェビナー

立教大学池袋キャンパス本館 1203 教室

2023.12.21. thu. 18:00 - 19:30

ドイツ初の女性首相メルケルが 2021 年に政界から引退した。あとを引き継いだ社会民主党・緑の党等による現政権は、さらに“発展的な”ジェンダー施策の整備と推進を公約している。これは、メルケルが率いたキリスト教民主同盟が主導する政策に対して批判的であった女性団体等の要求を受け入れた結果でもあり、その内容も性の「自己決定法」の成立、人工妊娠中絶法制の改正、「子供基礎保障」の導入等具体的である。一方で、それらへの反発も強く、ウクライナ問題という難問も抱えながらの政局運営の中で、その推進は難航している。

本講演では、2023 年春に報告者が刊行した『デジタル化時代のジェンダー平等——メルケルが拓いた未来の社会デザイン』をもとにメルケル政権下のジェンダー施策を振り返る。そして、そのさらなる推進を目指す現政権が公約に明記した施策と、その進行状況について報告する。そこから読み取れるメルケル政権の施策の特徴とその限界とはなんだったか。そして現政権はメルケル時代への批判をいかに受け止め、いかなる方向性で進めようとしているのか。キリスト教民主同盟という保守派の政権の下でもドイツではなぜジェンダー平等が進んだのか、同様の状況下にある日本でジェンダー平等を加速させるヒントにつながる議論の機会としたい。

デジタル化時代の ジェンダー平等



講師

佐野 敦子氏

博士（社会デザイン学）。立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科博士後期課程修了。国立女性教育会館専門職員（e ラーニング担当）、東京大学大学院情報学環・BeyondAI 推進機構 B' AI グローバルフォーラム特任研究員を経て、現在、立教大学ジェンダーフォーラム教育研究嘱託。

2023 年春に単著『デジタル化時代のジェンダー平等——メルケルが拓いた未来の社会デザイン』（春風社）を上梓。他に『ジェンダー研究と社会デザインの現在』（三恵社）などの共著がある。2018 年国連女性の地位委員会（CSW62）日本代表団メンバー、2023 年には G7 広島サミットに向けた公式エンゲージメントグループのひとつ Women 7 Japan にて Advisor を務めた。



主催・お問い合わせ 立教大学ジェンダーフォーラム

TEL: 03-3985-2307 E-mail: gender@rikkyo.ac.jp <http://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/gender/>